

# コンソ語の親族名称に関する覚書<sup>1</sup>

小脇光男  
(熊本大学)

## 0 はじめに

本覚書は、これまでに採取したコンソ語の語彙の中から親族名称および関連の語彙を抜き出し、簡単にまとめたものである。

意味の記述にあたっては、インフォーマントの説明から得られた用法等に関する情報もできるかぎり付け加えた<sup>2</sup>。また、可能な場合には、対応するオロモ語を参考までに[ ] 内に記した<sup>3</sup>。

## 1 親族名称<sup>4</sup>

family	tola (pl. tolla) [warra, maati]
husband	dirta, apa [dhirsa, abba warra] * apa は Karati 地域では普通に使用されるが、その

<sup>1</sup> 本稿は、平成 19～22 年度科学研究費基盤研究(B)「オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築」(代表者：乾秀行・山口大学、課題番号 19401023)、および、平成 22～25 年度科学研究費基盤研究(B)「変容するエチオピア諸言語の静態と動態に関する総合的研究、ならびにデータベース構築」(代表者：柘植洋一・金沢大学、課題番号 22401026) による調査成果の一部である。

<sup>2</sup> インフォーマントとして 2006 年以来、Gelebo Gando 氏(Karate 地域出身で、アルバ・ミンチ高校教員、2011 年 2 月の調査時に 52 歳)に協力していただいている。今回の調査(2011 年 2 月下旬から 3 月上旬にアルバ・ミンチで行った)でも、親族名称に関する新たな情報に加え、コンソ社会の人間関係についても貴重な情報をいただいた。

<sup>3</sup> Ephrem Assefa, *Polyglot English-Afan Oromoo-Amharic* (Aster Nega Publishing Enterprise, 1993) を適宜利用した。

<sup>4</sup> 以下、コンソ語には閉鎖音に有声と無声の対立が認められないので、表記としては単に p[p/b]、t[t/d]、k[k/g]としている。d、q はそれぞれ内破音[d]、[g]の表記である。また、母音の長短とアクセントの位置については今なお確定しがたいので、表記上は特にマークしていない。

	他の地域ではぞんざいな語とされ、dirta が好まれる。dirta はもともと「男、人」の意で apa よりも敬意のこもった丁寧な語である。
wife	ahata (pl. ahawwa), iskatteta [niti] * 常に ahatiyo (Karati 地域のみ), iskattetiyo 'my wife' の形で使われる。 * Karati 地域以外では ahata は「売春婦」といったマイナスのニュアンスを含むので使われない。 cf. ahata koddide 「彼女は不倫をした」
son	inna (pl. innada) [ilma] * 常に innaiyo 'my son' の形で使われる。inna (pl. hella/innada) は単に「(男の) 子供」を指すこともある。innna dirta 「男の子、息子」、inna enanta 「女の子、娘」 * なお、inna は語頭にアクセントがある。inná は 'no' (否定、拒絶) の意。
daughter	inannta (pl. enana) [intala, durba] * 常に inantiyo 'my daughter' の形で使われる。
grandson	opa (pl. opadda) [muca, mucaa ofii]
granddaughter	ofta (pl. oftada)
brother	innanno (pl. innadanno) [obboleesaa] * 独立形は innapa であるが、常に innanno 'our brother' の形で使われる。 * 家族内では常に alawiyo 'my brother' が使われる。
sister	tupara (pl. tuparra), alawta (pl. alaweta) [obboletii] * 常に tuparanno 'our sister'、alawtiyo 'my sister' の形で用いられる。呼びかけの形は alawta/alawte 'my sister'。 * alawta には「妻」の意もある。
father	apa [abbaa] * 呼びかけの形は apo
mother	aiya (pl. aiyada) [hadhaa] * 呼びかけの形は ayye
uncle(father's brother)	apa (pl. apada) [wasiilaa, eessumaa]
uncle(mother's brother)	apuyata (pl. apuyawwa)
aunt(father's sister)	mammata (pl. mamawa) [adaadaa]
aunt(mother's sister)	aiya * 「母」と同一の語。
grandfather	aka [akaakayyu] * 父方と母方の両方に使われる。
grandmother	okkota [akkoo] * 父方と母方の両方に使われる。
cousin	* 特別な呼称はなく、inna (inannta) apuyyata 'uncle's son (daughter)' がこれに相当する。
nephew <sup>5</sup>	ashuma [durbii (niece に同じ)]

<sup>5</sup> インフォーマントによれば、ashuma 「甥」と次の ashumata 「姪」はそれぞれ「自分の姉妹の息子、あるいは娘」を指すようである。

niece	ashumata [durbii (nephew に同じ)]
first born brother <sup>6</sup>	qarta (pl.qarada/qartada) [angaafa]
younger brother	kussitta (pl.kussiya) [quissuu] * 脚注 6 を参照
first born sister	* 脚注 6 を参照
younger sister	* 脚注 6 を参照
father-in-law <sup>7</sup>	(妻の父) sarkatta
mother-in-law	(夫の母) haqqitota [amaati] * 妻の母に対する特別な呼称はない。 * haqqitota はいわゆる「嫁と姑の関係」も指す。
brother-in-law	* 特別な呼称はない。[sodda]
sister-in-law	* 特別な呼称はない。[sayyuu]

## 2 その他の関連語

wedding	hemitta * hemitta は動詞 hemeta「結婚する」の名詞形で、伝統的な結婚式を指す。現代風の結婚式にはアムハラ語からの借用語 sarketa が使われる。
fiancé(e) <sup>8</sup>	aqapatame (f.aqapatamte) * 動詞 qapatta「婚約する」からの派生語
bridegroom <sup>9</sup>	?? [nama durba fuudhe]
bride	hantota [misirroo]
unmarried, single man	issinnicha
unmarried, single woman	issinnikitta * 「処女」[durbumaa]の意味もある。
widow	arpalayita * 離婚した女性にも用いられる。「離婚する」は oldisata [gadhisaa]
lover, concubine	karayyota (pl. karayyowa) * 男女同形「情夫、情婦、妾」

<sup>6</sup> 最年長の兄を呼ぶときにはその名前と呼ばれるが、年下の弟はすべて kussitta (pl. kussiya) と呼ばれる。長男以外の「兄」は inna kutta (pl. hella/innada kukutta)「大きい男、息子」。コンソの男性に多い名前 Kusse は kussitta の短縮形で、知らない男性に呼びかける場合にも使われる。一方、最年長の姉は kuyye、その他の姉妹は koyyitte (短縮形は koyye) と呼ばれるという。兄弟姉妹の呼び方や命名法には疑問な点が残っており、更なる聞き取りが必要である。

<sup>7</sup> 「妻の両親」を指す語として sottohowwa がある。妻の父または母に呼びかける時には短縮形の sotta が用いられる。

<sup>8</sup> 「ボーイ(ガール)フレンド」は一般的ではなく、該当する語はない。

<sup>9</sup> hemampayita (「結婚しようとしている男」の意)という語もあるが、女性形の hantota ほど一般的には使われないという。